

(7) 異常気象に負けない

気象庁が発表した3ヶ月予報によると、平均気温は沖縄・奄美で平年より高く、西日本と東日本は高いか平年並み、北日本は平年並みの可能性が大きいと言っています。北日本は8月に低温・多雨傾向とも予想しており、土砂災害への警戒をも求めています。昨年は太平洋高気圧の勢力が非常に強くラニーニャ現象の影響も重なり、6～8月の平均気温が過去113年間で最高の暑さでした。各地域で最高気温や猛暑日・真夏日・熱帯夜など過去最多の記録を塗り替えたことを思い出させられますよね。そして、関東地方の梅雨入りも平年より17日も早く到来したと報じられ、台風1・2号とも平年のこの時期としては考えられないコースを辿っています。

昨年もそうでしたが、こうした天候・気象の変化を異常気象と捉えるか、或いは地球温暖化の一環として考えるべきか、についてはそれぞれに議論されるでしょうが、現実の問題として農業に関わる面では、種々な場面で既に影響が顕在化しているとも言われます。一等米比率の急減した白濁米による品質低下が問題となった水稻や、着色不良や遅れなど気候に適応しきれなかった果樹も大きな影響を受け、長年培ってきた栽培技術でも御し難い経験を余儀なくされた場面もあったのではないのでしょうか。今後も高温障害が起きたり激しい降雨や干拔がひどくなるなど、極端から極端に走るような荒っぽい気候が、或いは世界的な現象としてみられるかもしれません。

北冷西暑を予想する気象庁ですが、農研機構東北農業研究センターによると、近年の傾向として「4月が低温の時は8月が高温となり、4月が高温の時には8月が低温となる」としています。2000～2010年の11年間で北日本に特徴的にみられた現象であるとのことですが、今夏は果たして如何になるのでしょうか。春先の低温で開花がずれ込んだサクランボも、近々出荷盛期を迎えます。ハウス物から雨除けへ代わって行く梅雨時は数量もさることながら、より大事にしたいのは鮮度と品質保持ではないのでしょうか。山形ブランドを代表し以後に続く果実や野菜たちの評価をより高めていくためにも、「流石に山形の産物は——」と、言われるものでありたいと願っています。異常気象や温暖化現象に負けない、いや克服しての力が充分にあると信じています。

(鈴木重雄 筆)